

CentreCOM® 8724XL/8748XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724XL/8748XL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 (2.5.3-04)

2 重要：2.3.1 pl08 からバージョンアップするときの注意事項

ソフトウェアバージョン **2.3.1 pl08** から **2.5.3 pl04** にバージョンアップすると、最初の再起動時には「設定なし」の状態です。再起動します（**2.5.1 pl06** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップでは、この問題は起こりません）。

バージョンアップ後は、コンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってください。

1. バージョン **2.3.1 pl08** で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

```
SHOW CONFIG
```
3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```
4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.5.3 pl04** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.5.3 pl04** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。


```
SET CONFIG=xxxx
```
8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

```
DELETE FILE=boot.cfg
```
9. 以上です。

3 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン **2.5.1 pl06** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) をご覧ください。

3.1 Secure Shell (AT-FL-02)

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「Secure Shell」**


IP ネットワーク上で安全なリモートログインを可能にする Secure Shell (SSH) に対応しました。本製品を SSHバージョン 1 (1.5) のサーバー / クライアントとして動作させることができます (IPv4 のみ)。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

3.2 ダイナミックポートセキュリティ

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


ポートセキュリティ有効時に学習した MAC アドレスをエージングの対象にするかどうかを選択できるようになりました。デフォルトでは、ポートセキュリティ有効時に学習した MAC アドレスはエージングの対象となりませんが、SET SWITCH PORT コマンドの RELEARN パラメーターに ON を指定すると、エージングされるようになります (ダイナミックポートセキュリティ)。

3.3 VLAN の "PROTECTED" オプション : 8748XL も対応

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」**


8748XL でも、CREATE VLAN コマンドの PROTECTED オプションが利用可能になりました。このオプションを付けて作成した VLAN 内では、ポート間のレイヤー 2 通信ができなくなります (レイヤー 3 通信は可能)。なお、8724XL はソフトウェアバージョン **2.5.1 pl06** で対応済みです。

3.4 オーバーラップ STP

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」**

スイッチポートが複数の VLAN に所属している場合、ポートを複数の STP ドメインに所属させられるようになりました (オーバーラップ STP)。ただし、オーバーラップ STP は標準規格でないため、他製品との相互接続性は保証されません。

3.5 QoS のスケジューリング方式追加

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」**


QoS のスケジューリング方式として、上位キューが空になるまで下位キューのパケットを送信しない従来の方式 (Strict Priority-based Scheduling) に加え、各キューに重みを付けてラウンドロビンで送信していく方式 (Weighted Round-Robin Scheduling) と、キューごとに最大送信遅延時間を保証する方式 (Weighted Round-Robin Scheduling With Bounded Delay) が追加されました。

3.6 BGP-4 (AT-FL-08)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」**


ドメイン間経路制御プロトコル BGP-4 に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-08 が必要です。

3.7 IGMPスタティックエントリー (AT-FL-03)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」**


IP マルチキャストのグループメンバーをスタティックに登録できるようになりました。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.8 MLD Snooping (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」**


不要な IPv6 マルチキャストパケットをレイヤー 2 でフィルタリングする MLD Snooping に対応しました。本機能有効時は、レイヤー 2 スイッチング動作において、メンバーの存在するポートにだけ IPv6 のマルチキャストパケットを転送します。本機能はデフォルトで有効になっており、ご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためには IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.9 ファイアウォール (AT-FL-02) : フラグメントパケットの透過・不透過設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」**

UDP、ICMP、その他（ただし TCP を除く）の各プロトコルについて、フラグメントパケットの透過・不透過を設定できるようになりました。デフォルトでは、再構成後の IP データサイズ（L4 パケットサイズ）が 1780 Byte を超えるか、フラグメントの数が 8 個を超えるパケットはファイアウォールで破棄されますが、フラグメント透過に設定することで、再構成後サイズの制限をなくすことができます。また、最大フラグメント数も 8～50 個の範囲で設定できます（透過設定時のデフォルトは 20 個）。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

3.10 ファイアウォール (AT-FL-02) : ルール NAT


 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」**

ファイアウォールの NAT 機能として、従来のインターフェース NAT に加え、ルール NAT が追加されました。ルール NAT は、ACTION=NAT のフィルタールールとして設定する NAT 機能です。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-02 が必要です。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.5.1 pl06** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) をご覧ください。

4.1 QoS 設定コマンドの変更

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

QoS 機能において、ユーザープライオリティーと送信キューのマッピングを変更するためのコマンドが、SET SWITCH QOS から SET QOS HWPRIORITYに変更されました。また、マッピングを確認するコマンドも、SHOW SWITCH QOS から SHOW QOS HWPRIORITYに変更されました。従来のコマンドも使用できますが、CREATE CONFIG コマンドを実行すると、新コマンドに変換されて保存されます。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.5.1 pl06** から **2.5.3 pl04** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 SHOW FFILE コマンドでファイル一覧が表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.2 スクリプトに変数 %T、%N、%S を使用した場合、IF THEN ELSE 文で EQ を指定しても 2 つの文字列が等しいときに真を返しませんでしたが、これを修正しました。
- 5.3 NTP パケットの Root Dispersion フィールドにマイナスの値をセットしてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.4 sysUpTime の値が 2,147,483,647 を超えた場合に、各種 SHOW コマンドにおいて、インターフェースの状態変化後の経過時間を示す ifLastChange が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 5.5 複数のユーザーが同時にログインしている場合、SHOW USER コマンドの表示において、すべてのユーザーの Login Time (ログイン日時) が、最後にログインしたユーザーのログイン日時になっていましたが、これを修正しました。
- 5.6 1000Mbps ポートでトランクグループを作成するとき、SPEED パラメーターに 10M か 100M を指定すると、後から同パラメーターの値を 1000M に変更できませんでしたが、これを修正しました。
- 5.7 スイッチポートの受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を 64Kbps に設定した場合、長さ 750 Byte 以上のパケットを連続して受信すると、パケットの送信が一定時間停止してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.8 SHOW VLAN コマンドで Mirror port 欄にミラーポート番号が表示されませんでした。これを修正しました。


- 5.9 ハードウェア IP フィルターで EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、EPORT パラメーターを無視して DENY アクションを適用してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.10 ハードウェア IP フィルターで ACTION=NODROP を指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.11 IP マルチキャストパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される IP Multicast Counters がカウントアップされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.12 レコードルートオプション付きの IP パケットをルーティングするとき、同オプションフィールドに誤った IP アドレスを書き込むことがありましたが、これを修正しました。
- 5.13 すでに OSPF が有効化されている状態で RIP を有効化すると RIP パケットが送出されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 5.14 RIP の経路情報を OSPF にエクスポートするよう設定している場合、RIP 経路のメトリックが 16 になっても同経路削除の Update を送信せず、RIP 経路が削除されたタイミングで Update を送信していましたが、これを修正しました。
- 5.15 OSPF 使用時、同一宛先に対して複数の経路が存在する場合、ケーブルを抜き差しするなどして頻繁に経路を切り替えると、タグなしポートからタグ付きパケットが送信されていましたが、これを修正しました。
- 5.16 受信した ARP Request の Sender Hardware Address、Sender Protocol Address フィールドにブロードキャスト、マルチキャストのような不正なアドレスが含まれていても、ARP キャッシュに登録していましたが、これを修正しました。
- 5.17 あるインターフェースがリンクアップすると、他のインターフェースからも RIPng Request が送出されていましたが、これを修正しました。
- 5.18 ICMPv6 Too Big メッセージの受信時、コンソールに不要なメッセージが表示されていましたが、これを修正しました。
- 5.19 IPv6 アドレス宛てに PING コマンドを実行するとき、LENGTH パラメーターに 1453 (Byte) 以上の値を指定すると、フラグメントパケットが正しく生成されず、PING がタイムアウトしていましたが、これを修正しました。
- 5.20 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.21 ADD/SET PIM INTERFACE コマンドの HELLOINTERVAL パラメーターが正しく動作しませんでしたでしたが、これを修正しました。

- 5.22 PIM-SM 使用時、ダウンしていた経路が復旧すると本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.23 PIM-SM 使用時、本製品と上流ルーター、下流ルーターが同じ VLAN に所属しているとき、1 度の Join メッセージでは、下流ルーターにマルチキャストパケットを送信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.24 IGMP Snooping 使用時、All Group 所属ポートが存在しなくなったにもかかわらず、該当ポートにマルチキャストパケットが転送され続ける場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 5.25 ファイアウォール使用時、TCP/SYN パケットの代理応答を無効にすると、VLAN を超えた TCP/SYN+ACK パケットのシーケンス番号が 0 になっていましたが、これを修正しました。
- 5.26 VRRP 使用時、SHOW VRRP コマンドを実行すると不要なメッセージがログに記録されていましたが、これを修正しました。
- 5.27 DHCP サーバーが Reclaim 状態のまま停止してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.28 DHCP サーバーの設定において、特定のパラメーターに 40 個以上のアドレスをセットするとリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.29 DHCP サーバー有効時に Telnet 接続を受けるとリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.30 ADD/SET DHCP POLICY コマンドにおいて、ETHERENCAP、MASKDISCOVERY、MASKSUPPLIER、ROUTERDISCOVERY、SUBLOCAL、TCPGARBAGE、TRAILERENCAP パラメーターが本来とは逆の意味になっていましたが、これを修正しました。
- 5.31 DHCP クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address (未使用の IP アドレス一覧) に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合がありますでしたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.5.3 pl04** には、以下の制限事項があります。

6.1 HTTP ダウンロードについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドの HTTPPROXY パラメーターが機能しません。HTTP プロキシ経由でファイルをダウンロードする場合は、LOAD コマンドの HTTPPROXY パラメーターでプロキシサーバーを指定してください。

6.2 ログについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。

6.3 SNMP MIB オブジェクトについて

 **「取扱説明書」 79～81 ページ**

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。


- MIB-II の ifInDiscards、ifInErrors、ifInUnknownProtos、ifOutDiscards、ifOutErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの MIB-II の ifInDiscards がカウントされます。
- ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できません。

6.4 NTP について

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できません。

6.5 フローコントロールについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに保存すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分で「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

6.6 ポートランキングについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


トランクポートからパケットを送出しているとき、LINK/ACT (L/A) LED が点滅しません。

6.7 ポートミラーリングについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- 本製品（CPU）が送信するパケットは、ソースポートがタグ付き・タグなしのどちらであっても、タグ付きでミラーポートから出力されます。
- システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。

6.8 ポートセキュリティーについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートセキュリティーがオンのポートで受信したパケットの VLAN ID が、ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、アドレスを FDB に登録します。
- ポートセキュリティーがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリーも削除されます。
- ポートセキュリティーがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストかマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

6.9 ポート帯域制限機能と QoS の併用について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


スイッチポートの送信レート上限値（EGRESSLIMIT）設定と QoS 機能を併用している場合、異なるユーザープライオリティーを持つ長さ 1522 Byte のパケットを 3 つ以上のポートから受信した場合、ユーザープライオリティーが無視され QoS が機能しません。

6.10 "PROTECTED" オプション付き VLAN について（8748XL のみ）

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


8748XL では、PROTECTED オプション付きで作成した VLAN に IP アドレスを設定した場合、SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、スイッチ自身の MAC アドレスを持つスタティックエントリーが表示されますが、これは表示だけの問題で動作には影響しません。無視してください。

6.11 スパニングツリープロトコルについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

6.12 ハードウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」


- 8748XL では、ポート 25 ～ 48 とポート 50 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT アクションが機能しません。
- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- IPX パケット（フレームタイプ 802.3raw）にマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーは IPX（フレームタイプ Ethernet 2）の IPX パケットにもマッチしてしまいます。
- コマンドラインから TYPE パラメーター（L3 プロトコルタイプ）を条件とするフィルターエントリーを作成した場合（例：ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY TYPE=0806 ACTION=SENDCOS）、まれに正しく動作しないことがあります。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

6.13 PPPoE の認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」 / 「概要」

PPPoE クライアントの設定において PPP パスワードを間違えた場合、システム再起動後、永久に再試行を繰り返してしまいます。

6.14 ICMP メッセージについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.15 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」


- TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリブートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。
- TRACE コマンドには宛先 IP アドレスを 1 つだけ指定してください。複数指定してもエラーにはなりませんが、正しく動作しませんのでご注意ください。

6.16 IP 統計情報の表示について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**


- ファイアウォール (AT-FL-02) 有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

6.17 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**

- 異なるネットワークからディレクティブブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (パケットを実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。
- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティブブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。

6.18 スタティック経路の設定保存について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」**

DHCP クライアントとして設定した IP インターフェースを、ADD IP ROUTE コマンドの INTERFACE パラメーターに指定した場合、この経路設定は CREATE CONFIG コマンドで保存できません。

6.19 RIP による経路情報の通知について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」**

ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。

6.20 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されません。

6.21 DNS キャッシュについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.22 ソフトウェア IP フィルターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」**

- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。
- 1 つの IP フィルターに対して複数のエントリーを作成した場合、パケットが 2 つ目以降のエントリーにマッチした場合のパフォーマンスは、1 つ目のエントリーにマッチした場合よりも低くなります。

6.23 DHCP リレーエージェントについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」**


DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

6.24 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」**

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでないと（ネットマスクがクラス標準マスクでないと）、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

6.25 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**

ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。


6.26 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-13)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」**

- IPv6 インターフェースの設定時に「DECREMENT=YES」を指定した場合、最終有効時間（Valid lifetime）が 0 になった時点で、SHOW CONFIG DYNAMIC=IPV6 コマンドの表示から同インターフェースの設定内容が消えます。


- 6to4 プレフィックスを持つアドレス（2002: で始まる 6to4 用のアドレス）を、実インターフェースに割り当てることができません。

6.27 PIM-DM (AT-FL-03) について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


- 本製品が Assert Loser のとき、Prune Limit Timer 満了後に上流ルーターからマルチキャストパケットを受信しても Prune メッセージを送信しません。そのため、Assert Winner との間で Assert メッセージのやりとりが頻繁に発生します。
- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に HELLO パケットを送信しないことがあります。
- Prune 状態のインターフェースが Graft しても、経路エントリーの Prune limit time が 0 にリセットされません。これは SHOW PIM コマンドの表示だけの問題であり、マルチキャストパケットの転送は正しく行われます。
- Assert Loser から Prune メッセージを受信しても Prune Ack を返しません。


6.28 PIM-SM (AT-FL-03) について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に HELLO パケットを送信しないことがあります。
- Join 中に上流ルーターの Generation ID が変更された場合、隣接関係の確立前（Hello パケットの送信前）に Join メッセージを再送してしまうため Join に失敗し、結果として、次の Join メッセージを送信するタイミングまでマルチキャストトラフィックを受信できなくなります。
- 本製品が BSR に選出されているとき、優先度が同一で、なおかつ、より大きな IP アドレスを持つ C-BSR からメッセージを受信しても、BSR の切り替えが行われません。このような場合は、設定をファイルに保存した後、システムを再起動してください。


6.29 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 [「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」](#)

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2 ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。
- PUBLIC 側でマルチキャストパケットを破棄した場合、「Dir=OUT」(本来は「Dir=IN」が正しい) で Deny イベントが記録されます。
- PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したスタンダード NAT ルールを設定すると、ICMP_FORWARDING が無効であっても PUBLIC 側からの ICMP パケットを PRIVATE 側に転送します。
- PUBLIC 側にリバース NAT ルールを設定する場合、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターに複数アドレスの範囲指定が可能になっています。リバース NAT では、GBLREMOTEIP パラメーターに単一のアドレスを指定するのが正しい仕様ですので、範囲指定はしないでください。
- インターフェース NAT またはルール NAT を使用している場合、フラグメントパケットを透過するように設定しても、再構成後の IP データサイズ (L4 パケットサイズ) が 1780 Byte を超えるパケットが IPSPOOF アタックと認識され、通信ができません。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

6.30 VRRP について

 [「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」](#)

CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

6.31 DHCP サーバー機能について

 [「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」](#)

DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP offer メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (Rev.C)」の補足事項です。

7.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

7.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。


7.3 スイッチポートの統計カウンターについて（8748XLのみ）

8748XL では、ポートグループ「1～24、49」と「25～48、50」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

7.4 1000Mbps ポートのフラッディングレートについて


リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

7.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループットについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

7.6 フォワーディングデータベースについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.7 IP マルチキャストのハードウェア処理（AT-FL-03）について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最も小さい VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を

持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

7.8 DVMRP (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」**

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

8 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RADIUS, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (Rev.C)」に記述があります。

COPY

DUMP

START PKT

STOP PKT

SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SET PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK

SHOW SWITCH MEMORY

SHOW SWITCH SWTABLE

SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF}]

SET STP [MODE] [RSTPTYPE]

SET STP PORT [EDGEPORT][PTP]

ADD/DELETE/SET IP MVR

CREATE/DESTROY IP MVR

ENABLE/DISABLE IP MVR

CREATE/DESTROY IP POOL

SHOW IP POOL

ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]

ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY

ADD/DELETE IP EGP
ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/DELETE IP SA
SHOW IP SA
SET IP ARP [DLC] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY

SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVERHEAD]
[LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]

ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE] [MODEM]
[NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE] [TYPE]

ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE

ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE

ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE

ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS

ADD/DELETE PPP ACRADIUS

ADD/DELETE PPP VLAN

ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR

ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]

SHOW PIM [STATEREFRESH]

9 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6920-01 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6920-01 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

